

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ひかりの里
(ユニット名)	1階 ひだまり
所在地 (県・市町村名)	三重県 桑名市 新西方 3丁目 187番地
記入者名 (管理者)	松原 政子(介護計画作成担当者)
記入日	平成20年 11月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「お年寄りの底力を活かそう」を理念に利用者の個々に合った役割を持って頂き、利用者の自信の回復と生きがいに取り組み、理念をつくりあげている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月一回ミーティングを行い、理念に向い、利用者の共通の理解とケアの統一を図っている。又、職員間で常に話し合い、施設長、管理者に指導、助言を頂きながら、理念の実現に取り組んでいる。幼老統合ケアを日々の生活の中で実践に取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関の目に付くところに理念を掲示し、訪問者が分かるようにしている。又、重要事項説明書に明示してあり、いつでも来訪者、入居者が見られるようにしている。ホームページ公開などで、地域に理解されるように取り組んでいる。光陵中学校、職場体験実習生受け入れ、ボランティア受け入れを通じ、地域へ事業所の理念を発信し理解してもらえるよう取り組	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	家族や近隣の住民、知人が訪ねやすいよう、玄関周りに草木を植えたり、建物周辺に気を配っている。又、近隣の方とは防犯パトロールの散歩や外出時に挨拶を交わしたり、行事参加への呼びかけをしている。利用者が手作りした手毬や牛乳パックのペン立てをプレゼントするなどの交流をし、日常的付き合いに努めている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	他県や県内の民生児童委員の見学・研修の受入れ、他自治体の介護高齢福祉課の視察の受入れ、大学関係者・内閣府の見学、雑誌や新聞などの取材、自治会への参加や事業所内を自治会の集会場に使用して頂くなど交流に努めている。又、地域の清掃活動、町内親睦会に職員と利用者が参加し、地域住民の一員として役割を果たし、地元の人々との交流に努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	市からの委託がないため、独自に家族会の事務局となり、健康及び介護予防教室を今後も継続できるように努めている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の見学、入居時の契約の際は、内容・運営方針・権利・義務等を説明し、協力医療機関と連携を取りながら検討、対応している。退居の際には、入居者の状態、家族の希望を大切に相談しながら決定している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書において、相談や苦情などを受け入れる窓口、職員名が明確に記入してあり、いつでも閲覧できるように共有スペースにおいてある。苦情処理窓口、苦情相談員を設け運営推進会議で苦情処理内容の報告をおこなっている。また、話しやすい環境づくりと職員は積極的に利用者の意見を聞き、迅速に管理者に伝わるよう、気づきノートなど対応に努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の「里だより」で写真を添えて報告を行っており、面会時には職員から積極的に様子を伝え、同時に家族の要望、意見なども話して頂けるよう雰囲気作りに努めている。必要時には、電話にて連絡している。又、金銭管理は総務課が管理し、出納を明らかにしている。年に一度 写真入職員の自己紹介(今年度の目標入り)を郵送などし、報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書において、相談や苦情などを受け入れる窓口、職員名も記載されている。いつでも閲覧できるように共有スペースにも重要事項などおいてある。また、話しやすい環境づくりと職員は積極的に家族の意見を聞き、迅速な対応に努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気づきノートを全職員が携帯し、意見や提案を記入している。毎月集計し、匿名で公開して運営に反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	上記のとおり、気づきノートにより利用者、家族の要望も記載し管理者、運営者に伝達している。行事、外出等には計画書等で事前に検討を行っている。また、事業所全体で職員同士が協力しあえるよう話し合っている。さらに1名サポート勤務者と1～2名管理者や事務職員をおき、柔軟に対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	業務の引継ぎの他、利用者の日常生活の状態などの引継ぎなども職員間で行なっている。また、なじみの利用者やなじみの職員の訪問も行い、利用者様のダメージが少なくなるよう配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員には一定期間、経験豊かな職員あるいは主任と一緒に業務を行う。マニュアル・ケアプランに沿いながら利用者の身体的・精神的な面の説明と対応の仕方などを利用者毎に指導。1～2ヶ月後、グループの新入社員研修を受講する。又法人内外の研修参加の機会を設け、働きながらトレーニングできるよう進めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム大会への事例発表や三重県グループホーム連絡協議会での職員の実習・交流の機会が有る。又、北勢地区事業者の意見交換会の事務局として段取りもした。同業者からの職員実習の受入れや実習に行くなどを行いサービスの質の向上に努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	1階の職員同士メールアドレスを交換し、相談や指示の必要となったとき主任(介護計画作成担当者)にメールを送くっている。また、「気付きノート」を活用している。且、各階の食事会、忘年会やミュージカル鑑賞などが企画され、職員の楽しみとなり、ストレス軽減の工夫や環境づくりを行っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	NO16にある「気づきノート」に取り組んだ内容を記載し、運営者や管理者が職員の努力・実績を知ることができるようにしている。勤務状況は実績表などを月1回提出することで運営者や管理者が確認できるようにしている。	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の思いを聞く機会をつくり、不安の軽減を図り、又希望に沿うように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接時に家族の思いを聞き、又、本人の普段の様子や不安なこと、求めていることなどを聞き、利用の際に利用者の希望に沿えるように努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者の個性を把握し、馴染みの関係が作れるような席の配置をしている。又、それぞれに役割を持っていただいているため、利用者同士がお互いに褒めあったり、協力し合う様子が見られる。</p>	○	<p>入居者の言葉、しぐさ、気持ちを大切にしながら助け合いの気持ち、支えあい出来るように職員が仲立ちとなり、入居者が交える場面を多く作るよう努めている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院等で退所する利用者の中には、退院後も継続してグループホームの利用を希望される方も多く、身体状況など相談の上、グループホームを継続して利用できるように関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と一対一で対話する機会をもっており、出来るだけ本人の希望や思いを職員に話していただけるような関係づくりに努め、日々のケアに活かしている。困難な場合は、家族からの情報や表情、しぐさなどに注意して本人本位に対応している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴などの詳しい聞き取りを本人や家族、担当ケアマネ等に行い、入居後も好きなこと、得意なこと、以前の生活の様子の把握に努め、グループホームでの生活に活かし、馴染みの生活に近づけるよう対応している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式を導入し、利用者の現状把握に努め、日々の様子は時間をおって記入し、一日の動きや発言、精神状態などを記録している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月一回ミーティングを開催し、職員間で課題の把握、情報の共有、ケアの統一に努めている。また、主治医や管理栄養士、歯科衛生士等と随時相談を行い、ケアプランに反映させている。入居者や家族とも相談し本人主体の目標を立て、介護計画を作成し、家族に報告し、意見を求め、了承をいただいた上で介護計画を実施し、さらに、家族にサービス評価(満足度○△×)を記入して頂いている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ケアミーティングを開いている。ヒヤリハットが出た時など介護方法に変更が必要な場合、職員間で話し合い、家族に報告し了解を得た上で、本人に了解を得られるような介護方法を検討し作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<input type="checkbox"/> 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<input type="checkbox"/> 個人記録に細かくその日の様子・必要になったケアと行った結果などを記録、特に続行の必要な事柄は申し送りノートに記入付箋をし、職員全員が読むよう促している。また、ケアプランに盛り込みたいことがあった場合、介護計画作成者に報告、次回のケアプランに活かしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<input type="checkbox"/> 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<input type="checkbox"/> 連携医療機関や他の医療機関への受診時や外出援助など多機能に対応している。また、リハビリやマッサージ等の希望には、協力医療機関と連携し、なじみの職員が支援している。学童保育、事業所内保育、デイケア、デイサービスなど同グループ全体の行事への参加など交流を図り、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<input type="checkbox"/> 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	<input type="checkbox"/> 随時ボランティアを受け入れており、必要に応じて民生委員、ボランティアの他、警察、消防、福祉センター、近隣の小中学校などと協力している。また、大学院の先生などからも見学の依頼があり協力している。	<input type="checkbox"/> 夏祭り、流しそうめん、家族会行事では大学や社協へボランティア協力を呼びかけ参加していただいている。また、月1回法話、音楽療法、年1回お化粧品ボランティアをお願いしている。さらに傾聴ボランティアの受け入れ予定であり、消防署との防災訓練など協力しながら支援している。
41	<input type="checkbox"/> 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	<input type="checkbox"/> 利用者、家族などの希望により、介護保険以外の送迎サービス、理美容サービスなどのサービスを利用していただいている。	
42	<input type="checkbox"/> 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	<input type="checkbox"/> 入・退所時の情報提供の他、運営推進会議に出席していただき利用者の状況を伝え、地域資源ネットワークの拡充に協働している。	
43	<input type="checkbox"/> かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<input type="checkbox"/> 主治医と常に連携を図っており、往診時には指示や助言をもらっている。また他の医療機関を希望の際には、家族と相談し、適切な医療が受けられるよう支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会、発表会、研修などに参加し、意識向上を図り、また入居者への言動や態度について職員間で話し合っている。記録の仕方や保管など、プライバシー保護に努めている。また、入居時に、本人、家族に書面にて見学・取材などへのご了解をいただいている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一対一で話す機会をもち、困りごと、希望など入居者の思いを表出しやすい関係づくりに努めている。また、行事や日々の生活においても、出来るだけ自分で決められるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に会話をもち、体調や気分など伺いながら、買い物や散歩に出かけるなど、本人の希望に沿うように対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝、起床時、利用者と共に着る服を選んでいく。理容は本人の希望に応じて、家族と連携し対応している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備、片付けなどは職員と一緒にいき、入居者の役割のひとつになっており、自信の回復につながっている。献立は管理栄養士に立ててもらっているが、入居者の好みや状態により随時変更している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者の嗜好の把握に努め、個別に対応している。お好きな飲み物をお聞きしたり、一緒に手作りおやつなどを作り、日常的に楽しめるよう支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンの把握に努め、職員間で情報の共有をし、状態に合わせ、パットの使用を減らすようにしている。便秘症の方は、水分摂取や運動を勧め、主治医と連携しスムーズに排泄できるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望を優先し、安心してゆっくりと入浴していただけるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の生活パターンを把握し、安心してゆったりと休んでいただけるようにしている。眠れない時には、暖かい飲み物や安心感を持っていただけるような声かけ、不安の除去に努め、安心して眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の利用者の残存能力に合わせて、役割を持っていただき、自信の回復を図っている。また、併設している学童保育の児童とおやつ作りをしたり、かまどでご飯を炊いたり、畑仕事をしたりと様々な活動に参加していただき、利用者の知恵や経験を發揮していただく場を提供し、教えていただき、楽しみや気晴らしがあるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望、能力に応じて、お金の管理をご自分でいただいている。又希望時、買い物へ出かけて支払いをする機会をつくり、支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に、個々の入居者の希望に合わせて、公園、パン屋、コンビニ、薬局、スーパーなどへ外出の支援をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望に沿って、家族と相談し、個別に、または数人の入居者との外出の機会を作って対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と連携し、携帯電話の使用でいつでも連絡が出来るよう対応したり、手紙のやり取りが出来るよう郵便局へ外出し、家族との関係の支援などしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問しやすいよう家庭的で、暖かい雰囲気作りに努め、一緒にお茶を飲んで過ごしていただいたり、職員が積極的に話しかけ、気軽に来ていただけるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束をしないケアについて正しく理解しており、取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が鍵を掛けないケアについて正しく理解しており、取り組んでいる。玄関にセンサーを付けている。夜間は防犯のため施錠を行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者のプライバシーに配慮しながら入居者の所在確認、様子観察、状態把握を行っている。付き添い、近くで見守り、介助をとおり安全に生活できるよう支援している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の希望に沿うように、本人とともに物品管理を行い、危険性を十分把握し、安全に使用できるよう支援している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書や事故報告書提出、事例検討などにより、入居者の事故防止、再発防止に努めている。ミーティングなどでケアの統一、情報の共有に努め、一人ひとりの状況に応じた事故防止に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量など記録に残し、また、趣向調査を実施し、個々に合った栄養が確保できるよう支援している。食事摂取量で不十分な場合、主治医と連携し栄養補給、水分補給の支援を行っている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策についてのマニュアルがあり、全職員が理解し、予防に努め対応している。年1回、インフルエンザ予防接種を実施している。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防のため、まな板・包丁・布巾の消毒、調理前の手洗いの徹底などの衛生管理と食材管理を徹底している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には花壇があり、玄関には行事などの写真・入居者が手作りした作品の展示や花が飾られており、家庭的な雰囲気づくりを心がけている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使用していたものを利用したり、季節に合わせた飾りなどを入居者と作ったり、職員用の掲示物を出来るだけ減らし、家庭的で居心地よく生活できるように入居者とともに工夫している。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には、掘りごたつ、一人掛けソファがあり、中庭と玄関先にはベンチがあり、入居者がゆったりと過ごしていただけるように工夫している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の使い慣れた家具、日用品、写真、布団を持参していただいている。本人が、グループホームでの生活に馴染んでいただけるよう、居心地よく安心できるように工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室、フローア、トイレ、浴室、脱衣所等、窓を開けたり、換気を行っている。加湿器の利用し、温度実度調節を利用者の状況に応じてこまめに行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は手すり、段差の解消など安全を確保しており、必要時、個々の入居者の身体状況に合わせ、滑り止めマット、夜間ポータブルトイレ、歩行器の使用など自立した生活が送れるよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の好きなこと、得意なことを活かして個々に合った役割を持っていただき、自信の回復のきっかけづくりをサポートし、自立した生活が出来るよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭では、畑、花壇、かまどを利用し、玄関先にも花壇があり、入居者の経験を活かしていただいている。また、餅つき、盆踊りなど季節の行事を開催し、交流の場になっており、利用者の楽しみや活動に活かしている。さらに、中庭や玄関先にベンチを置き、日向ぼっこや近所の方との交流など活動できるよう活かしている。	○	中庭の段差解消を検討中です。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「お年寄りの底力を社会に生かし、感謝される存在にする」取り組みをしている。利用者と放課後児童健全育成事業「児童クラブ パンの木」の児童との日常のかかわりを通し、利用者の得意だったことを児童や職員に教えて頂き、自分が活躍する場があることで自分の居場所を見つけていただけます。子どもにとってはお行儀が悪いと怒られたり、利用者の得意な裁縫、ピアノなど教えてもらえ、宿題をすると褒めてもらえ、子どもの心の安定や成長にも寄与しています。認知症になっても社会に貢献できることは沢山あります。それを見出し、子どもたちの教育、心の発達、生活力の育成に繋げる取り組みが幼老統合ケアです。また、新興住宅地に事業所があり、空き巣などの犯罪が多かったため、防犯パトロールをする案が自治会で出ました。新興住宅地のため日中を担当する人が見つかりませんでした。そこで、理事長の発案で今までしていた事業所内保育の幼児と利用者の散歩時に、利用者の承諾を得て「パトロール」の腕章を付けて散歩することになりました。この防犯パトロールにより犯罪が減少し、地域から感謝されるようになりました。